

# 鎮守の森だより

NPO 法人 社叢学会ニュース

第8号

2004年3月24日

## “くすのきさん” 名古屋市・雲龍神社の神木 公園として保存方法が決定

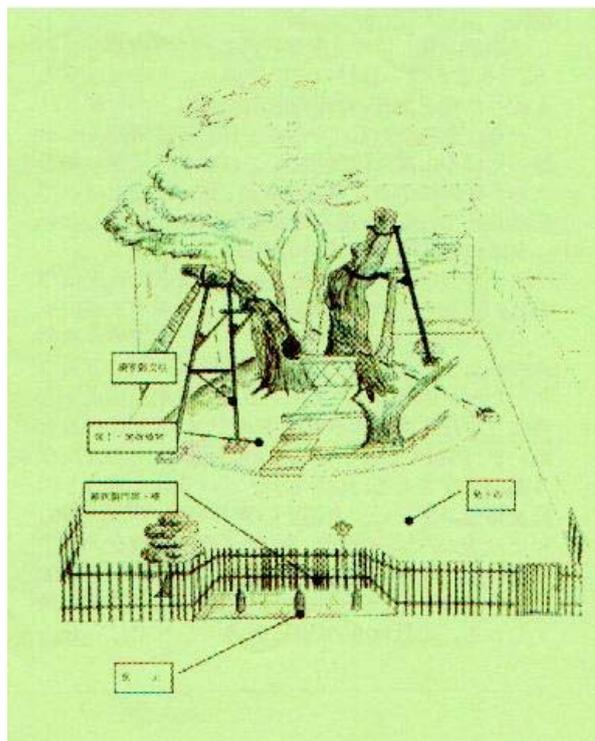
『鎮守の森だより』創刊号(平成15年1月20日刊)で「クスノキ残して! 涙の嘆願」という記事を掲載しましたが、ご記憶されていますでしょうか。

その内容は、名古屋市中区の雲龍神社の神木として、地元の人々に親しまれてきた樹齢千年といわれるクスノキが、市の区画整理事業のため伐採の危機に直面。「地元のお年寄りも、幼い頃から“くすのきさん”と呼び、親しんできたのにと涙を流して悲しんでいる」(『中日新聞』)ことを知り、当学会はクスノキの保存と活用を検討してほしい旨の「要望書」を理事長名で名古屋市長宛に送付。地元でもクスノキの助命嘆願の署名運動が行われ、その熱意に名古屋市もクスノキの伐採を中止した、というものです。

それから約1年。樹木医がクスノキの健康状態を調べた結果、この度、その保存方法が決定しました。樹齢1000年といわれる巨木が倒れないように鉄の柱で支え、根元に盛り土をして植栽し、雨などによる土砂の流出を防ぎ、さらに周囲に砂を敷いて公園化するというものです。

保存されるクスノキは、高さ約10メートル、幹

回りが約7メートル。昭和20年3月の空襲で傷つき、この度の伐採計画と、数々の試練に耐えてきたシンボルとして、今後も地元の人々に親しまれ、その人々の暮らしを見守っていくことでしょう。



## タイの「宗教の森」を巡る過去と現在

～政治経済、宗教の変遷と環境意識の高まりの中で～

講師 倉島 孝行 (京都大学大学院農学研究科)

### 背景とねらい

東南アジア大陸部の森林被覆の現況をながめてみると、かつてのベトナム戦争によって枯葉剤散布の影響を強く受けたベトナム地方においては、森林被覆が非常に少ない状況にある。しかし、タイ・ラオス・カンボジアなどの近隣諸国には、まだわずかながら森林が残っている。タイには4ヶ所の森林地区があるが、その中から、タイでも最も森林の消費が進んでいる東北部(面積約17万平方キロ)を例にとると、現在の森林率は9%である。因みにタイの総面積は日本の約1.4倍にあたる51万平方キロである。

東北地区の森林の具体的な内容をみると、まず現存する森林の約半分が、周辺の山地や丘陵地に位置し、森林局によって保護林に指定されている。残り半分の森は各所に散在し、「村の森」と呼ばれている。東北部の行政の中心地コーンケン県(人口約167万人)における「村の森」を調査すると、「村の森」でも特に「宗教の森」と呼ばれる森が存在する。

「宗教の森」には「祖霊の森」と「寺の森」がある。「祖霊の森」は村の中に位置し、そこには祖先を祀った祠があり、豊作や家内安全などが祈願されている。寺院のある「寺の森」は、村に隣接した田圃のそばや山麓に位置する。これはタイ仏教の僧侶たちが托鉢によって布施を受け、修行生活を送っているため、遠く人里を離れた場所には位置しない。

### タイに関するいくつかの概要

タイは700年来の歴史を持ち、現在の国王は3番目の王朝の9代目。1932年から立憲君主制国家となり、国王は政治的権限を持たない国家の象徴的な存在となった。人口は1960年には2,500万人であったが、95年には6,000万人に急増。国民一人当たりの総生産は1,800米ドルで、日本に比べると低い。隣接のラオスやカンボジアに比べるとかなり高い数字である。しかし、タイは首都と地方との経済格差が激しい。全国土の森林率は29%。1961年には50%であったが、80年ごろから現在の数字になった。森林減少の原因として、まず人口の増加に伴う開発と70年代の政治的動乱による荒廃が考えられる。宗教は95%が仏教徒で、どの村でも、その土地の寺院が地域社会の生活の中核である。

### タイの「宗教の森」の現在と過去

(1) 都市近郊の「寺の森」の過去と現在— 調査地は東北部の中心都市コーンケン市(人口30万人)から車で30分の地点にある「寺の森」。面積は35ヘクタール。森の周辺は水田が広がり、森の中の本堂の回りにはチークを植栽。都市近郊の「寺の森」の変容をみると、1950年代には鬱蒼としていたが、60年～70年代になると寺の周辺に菜園が広がり、90年代になると菜園がなくなり、植栽が行われるようになった。これは農村の生業変遷史と関係がある。

(2) 辺境地帯における「寺の森」の生成と存続— 調査した「寺の森」は東北部の最辺境地にあり、面積は500ヘクタール。この森のすぐ近くには国立公園が存在。「寺の森」は一面に森林が覆っているが、その周辺には耕地がある。そこでは焼畑によって、キャッサバやサトウキビが栽培されている。この地域は、1960年代には共産ゲリラの影響で森も荒廃したが、90年代に入って森林保護のプロジェクトによって、森が護られている。

(3) 一日本人僧侶による「寺の森」の造成史と現在— 調査した森は首都バンコクから西へ車で約3時間の地点にある。この日本人僧は1951年に岩手県に生まれ、74年にタイに渡り、チャーシという僧侶に師事し修行をつみ、89年には90ヘクタールの土地を寄進され、寺院を開設した。現在は、600人を収容できる本堂が建つが、もとはサトウキビ畑であった。この土地は国立公園に隣接し、90年代半ばから国家的な植樹や国王の記念植樹などによって、森林保護の活動が行なわれている。

(4) 東北部「祖霊の森」復活の試み— 「宗教の森」には「寺の森」のほかに「祖霊の森」があることを先述したが、1980年代から90年代にかけて、その土地の歴史や文化を学んでいこうということから、学校の先生が小・中学生を動員して「祖霊の森」の再生に取り組んでいる。

最後に、宗教の森はタイ全体の森林管理の中でどのような機能を担うのかといえ、バフファーゾーンの森として、あるいは農村部に散在する空間としての機能を生かすことではなかろうか。

## 鎮守の森の樹木調査について

講師 田中 利勝  
(自然通信社代表)

江戸川の東より利根川までの一帯、千葉県北西部10市町は東葛飾郡と呼ばれていた。その全体の広さは540平方キロメートル、人口は250万人、この地域の鎮守の森348社の調査をおこなった。

調査は、9年前に千葉県松戸市に引っ越したのをきっかけに開始した。川の環境調査から始め、特に江戸川の上流・下流といった各流域の生態を把握、カエルや産卵や赤とんぼの調査などを行った。1998年頃、調査を行う中で参道が荒れていることに気づき、また、参道が都市計画道路整備によってなくなることを知り、鎮守の森のほうが道路よりもはるかに大切だと感じた。すぐに鎮守の森の調査を住居の近辺である東葛(ほとんどが埋立地である浦安市を除く)を対象にはじめた。

鎮守の森の調査は、境内の樹木位置、樹高、周囲、樹木名を調べている。方法は、人員、時間、経費をかけずにひとりで行うため、樹木位置は位置のずれなど若干の誤差は出るがそれを承知で目視法によって行った。また、樹高は、目測による。周囲は、巻尺と8メートル以上の紐、ガムテープを用い胸高直径130cmを計測(ガムテープは巨木の場合周囲を一人で図ることができないため、紐の固定に使用)。他に、記録用のカメラ、ルーペ(トンボつかまえて分類するときにつかう)、双眼鏡(幹だけだとわかりにくい樹木があるので、枝先を確認するため)を携帯している。

調査後は、その日の内にきれいに清書をするにしている。できれば、集計もしてしまう。なぜなら、放っておくと後から見てもわからなくなることがあり、整理が難しいからである。木の種類、木の数などためると大変な数になる。調査当日の整理作業は体力的にきついが、後のことを考えるとやってしまった方がよい。

調査結果は「①樹木総数ポイント ②樹種ポイント ③巨樹ポイント ④環境がよい」の4つの指標で評価した。①は、樹木の数そのままをポイントと

した。②は、地域に豊かで多様な植生があることは大切と考え、アカガシ、スダジイ、ケヤキを10ポイントとして、他52種に最小2点のポイントを加えている。これ以外の樹木や庭木的な樹木は1点としている。樹種の評価基準は、子供のころの体験から思い入れのある木ほど高くしている。そして、在来種を高い得点に位置付けている。③は、氏子の思いや神社の歴史、そして木の歴史を考慮し、木の太さにポイントを加えている。幹周り2~7mまでポイントをつけた。例えば、アカガシはこの地域では幹周り3m~3m50cmを超える木はほとんどない。造船が昔盛んだったので、若い木が刈られてしまい、氏子が売ってしまったからだ。よって、このサイズを超えるアカガシのポイントは高くしている。古木、老木がある程ポイントは高くなる。④は、鎮守の森周辺の開発や周辺住民への配慮から、大きな木がばさばさ切られている問題をポイントとして表すため、優れた森には+50ポイント、樹木の枝を切り払うなどは-50ポイントとした。表を見たときに点が下がっているとこの鎮守の森には何かあると気づけるようにという意味を含めて、環境点をつけた。

以上の評価方法を全国的な調査の評価指標にするとなると、特に②や③の評価方法では、植生や歴史の地域差が生じ、他地域に当てはめることは難しい。関西版・関東版など地域ごとに樹種ポイントを変えなければならない。

上記4つの評価を加算したものが総合ポイントとなり、500点を越すと良好な鎮守の森で、1000点を越すものはわずかとなる。我孫子市の例をあげると、新木・香取神社 ①総本数122、②樹種ポイント127、③古木ポイント690、④環境点0、総合ポイント939 都部・八幡神社 ①総本数116、②樹種ポイント106、③古木ポイント180、④環境点+50 総合ポイント452のようになる。

(文責：安藤範親)

## 次回予告(第10回関東定例研究会)

日時：2004年(土) 14:00~17:00

場所：東京農業大学・世田谷キャンパス 18号館1階1811教室

(世田谷区桜丘1-1-1 TEL03-5477-2428)

テーマ：昭和レトロと原風景

講師：品田 穰(東京農業大学客員教授)

## 書籍紹介

### 『日本の古社』(全6巻)

神社といえば、本殿や拝殿などの建造物を連想する。しかし、神社の原像は聖なる森のある場所が聖域で、後にそこに神社建築が造営されたのである。こうした観点から、当シリーズは従来の神社の歴史や建造物・神宝などの文化財の紹介にとどまらず、聖なる森(神域)と人の営みにウエートをおいている。特に各巻の巻頭随筆「神々の物語」、それに続く約50ページの神域の写真構成は、まさにピュアな聖域としての神社観を打ち出した書物である。因みに全6巻の構成は、伊勢神宮・春日大社・伏見稻荷大社・大神神社・住吉大社・賀茂社(上賀茂神社・下鴨神社)となっている。

淡交社・定価各巻2,800円(税別)

### 事務局から

- 当学会の事務局が4月1日より下記の住所に移転することになりました。電話番号・Fax番号・メールアドレスの全てが変わりますので、ご連絡の際はご注意ください。なお、移転準備中に通信関係でご連絡を取れなかった方には深くお詫びいたします。

### 平成16年度総会・研究大会

日時 平成16年5月30日(日)  
会場 熱田神宮文化殿(名古屋市熱田区)  
スケジュール

11:00~11:30 総会  
11:30~12:30 基調講演  
13:30~15:15 パネルディスカッション  
15:30~17:30 研究発表  
17:45~19:00 懇親会(参加費必要)

- 平成16年度の総会ならびに研究大会の日程が別記一覧表のごとく決定いたしました。詳細な内容は5月初旬にお知らせいたします。奮ってご参加ください。
- 学会誌『社叢学研究』の第2号を同封させていただきました。今年こそは3月中に会員の皆さまのお手許にと頑張ったのですが、いま一歩及びませんでした。当「鎮守の森だより」のご送付にも影響しましたこと、深くお詫び申し上げます。
- 平成16年度(平成16年4月~平成17年3月)の会費の振込用紙を同封させていただきました。会費納入が確認でき次第、平成16年度の会員証をご送付させていただきます。
- 正会員の吉松和平さんより次のような呼びかけが届いています。

「森が蘇えり、里山が甦り、田畑が蘇えり、人々が生き生きと暮らす地球を目指し、みんな考え行動する集い、ワーキンググループをつくりたいと思います。」

賛同される方は下記まで葉書にてご連絡下さい。

〒221-0842 横浜市神奈川区泉町6-5

吉松和平

### 編集後記

学生時代以来の京都通い(というほどまだ来てないけど...)。事務所からちょっと北へ行くとイノダコーヒー本店があるしい、南に行くと錦の市場の手前に最近評判のおいしいケーキ屋さんがあるしい。落ち着いて事務所になんかいてられない! かの超アナログ人だったI事務局長も無事パソコンデビュー(こっそりパソコンスクールに通ってたんだ!)を果たしたことだし、「お仕事」はお任せして... と思いきや! I局長も「この近所、ええ居酒屋が多いんだわ」とご機嫌。夕方5時過ぎに事務所にいらっしゃればI局長主催居酒屋ツアーにご案内しますよお! (藤岡 郁)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区蛸薬師通堺町通西入雁金町373番地  
みよいビル303号 TEL075-212-2973 FAX075-212-2916 E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)  
社叢学会関東支部 〒171-0021 豊島区西池袋2-36-1 ソフトタウン池袋1101  
TEL03-5950-6507 FAX03-5950-5184 E-Mail [shasou@macrovision.co.jp](mailto:shasou@macrovision.co.jp)